

戦後80年記念企画展

国策紙芝居と残された言葉たち



『椰子の仲裁』

涙



『破邪の剣』

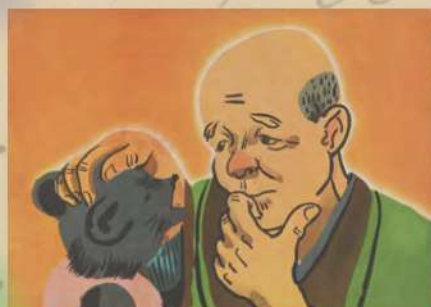
感銘



『軍神の母』



『お米と兵隊』



『太郎熊と次郎熊』前篇



『泣いた赤鬼』



『爪文字』



『空の軍神加藤少将』

感動

2025年

6/27(金)～8/22(金)

神奈川大学横浜キャンパス3号館1階企画展示室
入場無料

【開室時間】10:00～16:30

【閉室日】日曜・祝日・夏季休業の土曜日
※詳しくは、企画展示室ホームページをご確認ください。

【主催】KU国策紙芝居プロジェクト

【協力】神奈川大学非文字資料研究センター
※展示内容は予告なく変更される場合があります。

本企画展では、国策紙芝居と、当時の人々が残した感想について紹介しています。

銃後の人々は、どのような思いで国策紙芝居を上演・鑑賞し、どのような言葉を残したのでしょうか。神奈川大学のコレクションや鎌田共済会郷土博物館の『紙芝居感想録綴』などの資料を通じて、その実態を読み解きます。



『櫛』



『月の中のうさぎ』

国策紙芝居

国策紙芝居とは、主に戦時中に、戦意高揚を目的に制作された国策宣伝用の紙芝居です。

紙芝居は軽量で持ち運びやすく、学校や寺社、教会などさまざまな場で上演されました。また、視覚、聴覚に訴えるその優れた伝達力を活かし、軍事的な内容に限らず、貯蓄を奨励する作品など、多岐にわたる題材が扱われました。こうした国策紙芝居は、プロパガンダの手段として機能すると同時に、娯楽として人々の暮らしに溶け込み、親しまれました。

『紙芝居感想録綴』

『感想録』は、戦時中に国策紙芝居の貸し出しを行っていた鎌田共済会(香川県坂出市)によって作成されました。

『感想録』には、国策紙芝居を上演した人々の感想や観客の反応をはじめ、上演日時や場所が記録されており、当時の上演状況を知ることができます。また、『感想録』は検閲を受けておらず、国策紙芝居への賛美から批判まで、多様な感想が記されています。

銃後と調査地・香川

銃後とは、直接戦闘に加わらず、前線の背後でこれを支えた一般国民のことです。

『感想録』には坂出市の市街地をはじめ、周辺の農山漁村の、銃後の人々の言葉が記されています。

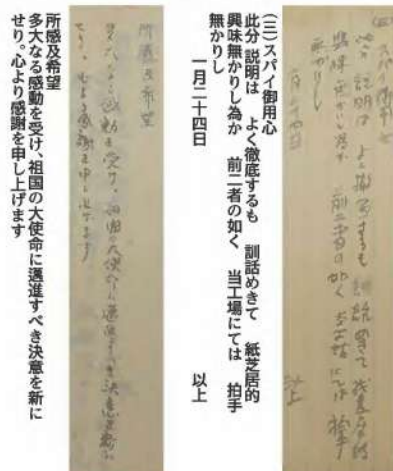
この地域では、娯楽に関心を寄せる人も多く、そのため、国策紙芝居は子供会から町内会までの幅広い範囲で盛んに上演されました。また、紙芝居を借りに遠方から訪れる人も少なくありませんでした。

KU国策紙芝居プロジェクト

KU国策紙芝居プロジェクトは、神奈川大学の学生が、学部学科の枠を越えて集まった有志団体です。

これまでに、『感想録』が作成された香川県を訪れ資料の閲覧や、地域の人へのインタビューなどの現地調査を行ってきました。

私たちは、この企画展が、国策紙芝居という視点から戦争について考える場となることを願っております。



実際の感想



『感想録』表紙

紙芝居を返却の際、利用者には感想の提出が求められていた。



活動風景

★展示解説 6月28日(土) 13:30~15:00

プロジェクト所属学生による展示の解説
約20分 事前予約不要



【会場】〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学横浜キャンパス3号館1階 企画展示室

【アクセス】東急東横線「白楽駅」、「東白楽駅」 徒歩13分
※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。

※急な閉室やその他の情報はホームページでお知らせします。
詳細は右記QRコードよりご確認ください。



【SNS】X: @jomin_official
Instagram: @jomin.kanagawa.univ
Facebook: 神奈川大学日本常民文化研究所/
非文字資料研究センター

【お問い合わせ】himoji-info@kanagawa-u.ac.jp